

第1学年〇組 国語科指導案

指導者 〇〇 〇〇

- 1 日時・場所 令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時 1年〇組教室
- 2 単元名 せつめいする文しょうをかこう
(教材名) 「じどう車くらべ」/「じどう車ずかんをつくろう」 光村図書 1年
- 3 単元・教材について

【単元目標】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
(2) ア 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。	B (1) イ…書くこと 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 C (1) ア…読むこと 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。	わかりやすい説明の仕方について興味を持ち、説明の順序に気を付けながら、自分でも自動車図鑑を作ろうとしている。

【教材の特性】

「それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか。」「そのために、どんなつくりになっていますか。」という二つの問いに対して、三つの事例を挙げながら説明していく文章である。三つの事例は身近なものから順に挙げられており、説明の順にも「しごと」→「つくり」という一定の型がみられる。

既習の「くちばし」や「うみのかくれんぼ」と比べ、二つの問いの間に因果関係が見られる点が特徴である。どの事例においても「しごと」に合わせた「つくり」が説明されている。

答えの文では、「しごと」と「つくり」を「そのために」という言葉でつなげている。「しごと」は一文で「つくり」は二文で説明されている。「つくり」の説明の一文目には、なぜその「つくり」にする必要があったのか、詳しくは説明されていないが、二文目には、多少その「つくり」にした意図が説明されている。説明されていない部分に関しては、児童に考えさせることで、理解が深まることが期待できる教材である。

【単元計画】(13時間)

段階	主な学習活動	評価規準
見通し(つかむ)	① 自動車の種類について、知っていることを話し合い、児童から出てきた自動車のカードを提示する。カードを仲間分けし、題名の「くらべ」という言葉に注目させる。 ② 学習課題を設定し見通しをもつ。	・さまざまな自動車には、それぞれ「しごと」と「つくり」があることに興味を持ち、学習課題に進んで取り組もうとしている。 【態】発言・記述
課題解決(広げる)	③ 文章全体の構成を捉える問いの文やでてきた自動車を確認、内容の大体を捉える。 ④⑤⑥それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を読み取り、カードにまとめる。 ⑦⑧どんな順序で説明されているのかを話し合う。	・「しごと」に合った「つくり」が説明されていることに気付いている。 【知】発言・記述 ・それぞれの自動車の説明を読み、その「しごと」と「つくり」を捉えている。 【思C】発言・記述 ・説明の順序について考える活動を通して、構成の意図を捉えている。 【思C】発言・記述
共有化(深める)	⑨はしご車の「しごと」「つくり」を考え、ワークシートにまとめる。 ⑩本などを使って紹介したい自動車を調べ、自動車を決める。 ⑪⑫調べたことを文章に書く。	・はしご車の資料からその「しごと」と「つくり」を捉えている。 【思C】発言・記述 ・説明における順序の必要性を知り、自分が説明するときに活かそうとしている。 【態】発言・記述 ・「しごと」と「つくり」の関連を考えている。

	⑬カードを読み合い、友だちの文章の良いところを見つける。 ⑭作成したカードでクイズを出し合い、学習を振り返る。	【知】 ・紹介したい自動車の「つくり」の情報を集め、「しごと」に合わせた「つくり」を選び、伝えたいことを明確にしている。【思B】記述 ・調べたことをもとに、「しごと」「つくり」の順でカードを書いている。【思B】記述 ・カードを読み合って、友だちからよかったところを聞き、自分の文章のよいところを見つけている。【思B】発言・記述
--	---	--

4 児童の実態とめざす子ども像に迫るための手立て

【児童の実態】

- 説明文は、問いと答えがあるということを理解して読むことができる。
- 友達の意見を聞こうとすることができる。

- 「否定されたら」「間違っているかもしれない」という気持ちから発表に対して苦手意識がある。
- 文章から必要な語や文を選び出すことが難しい。



【めざす子ども像】進んで話し合い、自分の考えを持てる子（下学年ブロック）



【めざす子ども像に迫るための手立て～子ども主体の授業づくりを通して～】

- ①身近な自動車カードを仲間分けする活動を導入に行い、「いろいろな自動車についてもっと知りたい！」という意欲を高め、「調べたことを図鑑にまとめる」という目標をもって学習課題に取り組めるようにする。
(考える必然性)
- ②学習の軌跡を掲示したり、資料や図鑑を用意したりしておき、根拠を明確にしながら「しごと」と「つくり」を考えられるようにする。
(考えの根拠の明確化)
- ③「じどう車ずかん」を読み合う活動をする際に、聞き手に良い説明文のポイントを提示することで、自分や相手の文章良いところを見つけられるようにする。
(考えの共有化・考えの相違の自覚化)
- ④児童の「じどう車ずかん」に対する思いやまとめ方を丁寧に見取り、価値づけたり、良いことを見つける活動で活かせるようにする。
(教師の出場)

5 本時について（13／14時間）

【本時目標】図鑑にまとめたことを読み合い、順序が正しいかを確認し合い、良いところを見つけることができる。

【本時展開】

学習のめあてと活動	支援・留意点（・）評価（○）【評価項目】／方法
1 学習のめあてを確認する。 ずかんをよみあい、よいところを見つけあおう。 2 ペアで読み合い、確認する。 3 グループで読み合い、良いところを見つけ合う。 4 見つけた良いところを全体で共有する。 5 学習を振り返り、次時の確認をする。	・ 本時の学習のめあてを確認し見通しもたせる。 ・ 確認する前に、自分の図鑑を読む練習をする。 ・ 確認する項目を設け、どこに注目すべきか明らかにし黒板に掲示して視覚的にも支援する。 →①「です。」「ます。」になっているか。 ②「しごと」→「つくり」の順で書けているか。 ③「しごと」に合った「つくり」を書けているか。 ・ 何を確認したら良いかわからない児童には、項目に○をつけられるようにチェック表を準備する。 ・ 最初に確認した項目をもとに良いところを見つけるようにする。 ・ 友だちの良いところをワークシートに記入する時間を設ける。 ○友だちから聞いて、自分の文章の良いところを見つけることができる。 【思】記述・発言

- 1 日時・場所 令和〇年〇月〇日(〇)〇校時 2年〇組教室
- 2 単元名 せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう
(教材名) 「馬のおもちゃの作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう」光村図書 2年
- 3 単元・教材について

【単元目標】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
(2) ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。	B(1) イ…書くこと 事柄の順序に沿って簡単な構成を 考えることができる。 C(1) ア…読むこと 事柄の順序などを考えながら、内容 の大体を捉えることができる。	事柄の順序に沿って粘り強く 構成を考え、学習課題に沿って おもちゃの作り方を説明する 文章を書こうとする。

【教材の特性】

4つの部分(前書き、〈ざいりょうとどうぐ〉、〈作り方〉、〈楽しみ方〉)で構成されている。文章を構成するまとまりも、〈作り方〉の手順も分かりやすく説明するために順序を意識して書かれている。

前書きでは、1文目で「みの回りにある」「空き箱」を使ったおもちゃに限定し、2文目で「すこしのしかけで」「うごきをする」とさらに範囲を狭めている。児童達が作ったことのあるおもちゃを想定できるように記述されている。

〈ざいりょうとどうぐ〉では、材料と道具が列挙され、上部に写真、下部に図が配置されている。

〈作り方〉は、5段落で構成され、まず部品を作り、それを使って順に作製していく手順が記述されている。

各段落の1文目はその段落の内容を端的に示し、その具体は2文目以降に示すという記述の仕方をしている。また「作業を表す文」と「作業の意味を表す文」とで記述されている。段落①②では、「作業を表す文」と「作業の意味を表す文」が交互に配置されているが、段落③④⑤では、「作業を表す文」のみで書かれている。また、写真は6枚使われ、関連する本文の上部に置かれることにより、児童は本文と照応させやすい。

〈楽しみ方〉は2文で記述され、1文目は完成したおもちゃをどのように動かせばいいかという、動かし方の説明である。しかし、その動かし方は本文だけでは理解しにくいところもある。写真に矢印を加えて動かし方を視覚的に捉えられるようにして本文を補完している。

【単元計画】(全15時間)

段	主な学習活動	評価基準
見 通 し (つ か む)	①「せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう」という単元のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。 ②自分が説明するおもちゃを探す。	「おもちゃの作り方」の説明の仕方に関心をもち、進んで分かりやすい説明を書こうとしている。 【態度】発言・記述
課 題 解 決 (広 げ る)	③④⑤実際に馬のおもちゃを作りながら教材文を読み、説明の工夫を見つける。 ⑥説明の工夫を紹介し合う。	順序が分かる言葉をもとに、馬のおもちゃの作り方の手順を捉えている。 【知識・技能】発言・記述 順序を考えて教材文を読み、文のまとまりを捉えながら説明の工夫を読み取っている。 【思考C】発言・記述

共有化 (深める)	⑦「おもちゃの作り方」の説明を書く学習への見通しをもつ。 ⑧説明するおもちゃを決め、必要な材料や道具を考える。 ⑨⑩選んだおもちゃの作り方の説明の仕方を考える。 ⑪⑫選んだおもちゃを説明する文章を書く。 ⑬書いた文章をもとにおもちゃを作ってみて、文章の見直しをする。 ⑭⑮完成した説明文を読み合って感想を伝え合い（伝え合って）、学習を振り返る。	順序が分かる言葉を使って説明する文章を書いている。 【知識】記述 説明の順序に沿って、構成を考えながら文章を書いている。 【思考 B】記述 文章を読み返し、分かりづらいところを書き直すなど、文章をより良くしている。 【思考 B】観察・記述 友だちと書いた説明を読み合い、感想を伝え合っている。 【思考 B】観察・発言 学習したことを生かし、順序を意識して分かりやすい説明を書こうとしている。 【態度】観察・記述
--------------	--	---

4 児童の実態とめざす子ども像に迫るための手立て

【児童の実態】

- 順序を考えて書くこと、話すことの大切さを感じつつある。
- 自分の思いや・考えを伝えるとき、その順序や内容を整理して行うことは難しいことが多い。



【めざす子ども像】

進んで話し合い、自分の考えをもてる子ども。(低学年ブロック)



【めざす子ども像に迫るための手立て～子ども主体の授業づくりを通して～】

- ①1年生に「おもちゃの作り方」を伝えるという言語活動を設定し、「年下の児童にも分かるように伝えよう」という明確な学習課題をもって意欲的に取り組めるようにする。
(考え・伝える必然性)
- ②児童同士で書いた「おもちゃの作り方」を読み合い・聞き合い（伝え合い）、共有化を図り、より分かりやすい方法を意識できるようにする。
(考えの共有化・相違の自覚化)
- ③児童の作成した「おもちゃの作り方」の説明書を丁寧に担任が見取る。ICT の活用・感想交流・振り返りなど、学習形態を工夫し共有化に生かせるようにする。
(教師の出場)

6 本時について（14／15時間）

【本時目標】「おもちゃの作り方」を読み合い・聞き合い、説明を工夫していると感じたところを伝え合うことができる。

【本時展開】

学習のめあてと活動	支援・留意点（・）評価（○）【評価項目】／方法
1、学習のめあてを確認する。	・ 本時のめあて、進め方を確認する。 「おもちゃの作り方」を読み合い聞き合い、工夫していることを見つけ、伝え合おう。
2、「おもちゃの作り方」を読み合い聞き合い、工夫していると感じたことを伝え合う。	・ 説明の工夫を見つけ合うことが目的のため、意図的にペアリングする。 ・ 映像活用のために、クロームブックを計画的に活用する。 ・ 伝え合いが難しい児童には、説明で分かり易かった箇所を尋ね、理由を聞くことで誘導する。 ・ 工夫していることの例示をして、気付きやすいようにする。（接続詞・図・絵・クロームブックなど） ○友だちが書いた「おもちゃの作り方」説明書を聞き、工夫していると感じた箇所を伝えている。 態度【観察・発言】
3、自分の書いた説明書の良いところを確認し合う。	・ ペア学習での他者評価を踏まえ自己評価をさせ、「できるようになった。」という実感をもたせるようにする。 ・ ワークシートに印をつけることで、皆が評価しやすいようにする。気付いた良いところを書きやすいようにフリースペースを設ける。
4、学習の振り返りと次時の確認をする。	・ ペアの評価をもとに、今日分かったことを確認する。 ○自分の書いた説明書の良さを確認し、今後に生かそうとしている。 思考【発言・観察】

- 1 日時・場所 令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時 3年〇組教室
- 2 単元名 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう
(教材名) 「すがたをかえる大豆」 光村図書 3年
- 3 単元・教材について

【単元目標】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力，人間性等
(2) イ 比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。 (3) オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。	B (1) ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。 C (1) ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基にとらえることができる。	積極的に説明される内容とそれを支える事例との関係などについて叙述を基に捉えたり、それらを明確にして書き表し方を工夫したりしようとする。

【教材の特性】

大豆がどのような工夫でどのような姿に変わっているかを述べた説明的な文章である。「話題提示→具体例を挙げての説明→まとめ」という構成で、よく知られている食品から気づかれにくい食品へと具体例の配列を工夫している。「文章全体の組み立てや段落同士の関係」「言葉の使い方」「写真の使い方」という筆者の説明の仕方の工夫を読み進めることで理解できる。これらの学習を生かして、食べ物のひみつを書く学習へとつながっていく教材である。

段階	主な学習活動	評価規準
見 通 し (つかむ)	①扉を確認し、大豆について知っていることなどを出し合う。 ②本文を読み、大豆のひみつを大まかに理解する。 ③学習課題を決め、学習の見通しをもつ。	・学習課題を解決するための計画を立て、見通しをもっている。 【態】記述・発言
課 題 解 決 (むかう)	④本文を読み、小見出しをつけ、内容を抽象化する。 文章を「はじめ—中—終わり」のまとまりに分け、文章構成を分析する。 ⑤「中」の部分を読み、「大豆をおいしく食べる工夫」と「調理方法」「食品」を抜き出し、内容を整理する。 ⑥教材文と順序を入れ替えた文章を読み比べ、「中」の部分 五つの段落の関係を順序立てて考える 筆者の説明の明確さについて交流し、説明文の文章構成を分析する。 ⑦身近な食べ物から、自分の調べたいテーマを決める。 目次や索引を活用し、調べたいテーマについて、必要な本を選んで読む。 ⑧引用の方法を学び、本から調べているテーマについて必要な部分を抜き書きする。	・「はじめ—中—終わり」のまとまりを意識して、段落ごとに説明されていることを理解している。【思】記述 ・接続後に着目し、「大豆をおいしく食べる工夫」と「食品」が五つのまとまりに分けられていることを理解している。【思】記述 ・内容や段落相互の関係を順序立てて考え、文章を読んでいる。【思】記述 ・調べたいテーマについて、適切な資料を選び必要な情報を集めている。【態】発言・記述 ・必要な情報を抜き出し、事柄ごとに段落に分けて書いている。【知】記述

(生 か す) 活 用	⑨集めたメモの中から、伝えたい事柄を選択する。 メモをもとにして、一段落ごとに短冊カードに文章を書く。 ⑩短冊カードを並び替え、段落相互の関係を順序立てて考える。 文章の構成や表現の工夫を具体化して説明文に書く。 ⑪グループで、互いの説明文を読み合い、文章の構成や表現の工夫の良いところを伝え合う。 ⑫友達と交流したことや推敲の視点をもとに文章を清書する。 ⑬「食べ物のひみつ」について調べて書いた説明文を発表し合い、表現の工夫を見つけ、意見を述べ合う。 ⑭「食べ物のひみつ」を仕上げ、この学習を通して身につけた力や課題について振り返る。	・「すがたをかえる大豆」の文章構成を生かし、伝えたい事柄を明確にした文章を書いている。 【知】記述 ・考えの明確さや表現の工夫について、意見を述べ合っている。【思】発言 ・書いた文章を読み返し、確かめながら書き直している。【知】記述 ・文章の構成や表現の工夫について、良さを見つけ意見を述べ合っている。【思】発言 ・学んだことを振り返り、自己評価している。 【態】記述・発言
------------------------------------	---	--

【単元計画】(全14時間)

4 児童の実態とめざす子ども像に迫るための手立て

【児童の実態】

- 説明文の大まかな内容を捉えられる子が多い。
- 友達と相談することで考えを持とうと意欲をもつ子が多い。

- 内容のかたまりごとに分けることに困難さがある。
- 中心になる内容などの根拠を押さえることが苦手。
- 説明文で学んだ文章の構造を、自分の作文に生かす経験が少ない。



【めざす子ども像】進んで話し合い、自分の考えを持てる子



【めざす子ども像に迫るための手立て～子ども主体の授業づくりを通して～】

- ①単元の後半に「食べ物のひみつ」という説明文を書く学習内容を設定する。書くにあたっては、読み手にわかりやすい文章を書くことが必要になる。これを説明文の構成を読み取る必然性に結び付けたい。具体的には、接続語を使うことや具体例の順序の工夫することに気づかせ、生かすことが大切であるという意識を持たせたい。
(考える必然性)
- ②文章の並び替えを学習のゴールにするのではなく、この順番での文章構成になった根拠を考えさせることで、叙述を根拠に考える場を作りたい。また、友達との考えのズレを自覚させ、共有化の場を作りたい。
(考えの根拠の明確化) (考えの共有化・考えのズレの自覚化)
- ③教師の出場を限定し、児童同士のかかわりあいの時間を多く設けることで子ども主体の授業へと近づけていきたい。ただし、グループごとの話し合いをしている際にも発言の価値づけをしていく。
(教師の出場)

5 本時について（6／14時間）

【本時目標】

教材文と順序を入れ替えた文を読み比べることで、順序立てを意識したわかりやすい説明文の文章構成がわかる。

【本時展開】

学習のめあてと活動	支援・留意点（・）評価（○）【評価項目】／方法
1 学習のめあてを確認する。 「食べ物のひみつ」をせつ明するときのくふうを見つけよう 2 「中」の部分について、教材文と順序を入れ替えた文章を読み比べ、五つの段落が、どのように順序立てられたのかを考える。 3 筆者が内容をどのように順序立てたのかをグループで交流し、考えた順序が適切かどうかの確認をする。内容を筆者の順序立てで説明することの良さを考える。 4 自分の考えを明確に伝える説明文の書き方をまとめる。 4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・本時の学習のめあて、学習の仕方を確かめながら見通しをもつ。 ○内容や段落相互の関係を順序立てて考え、文章を読んでいる。【思】発言・記述 ・グループでの話し合いを基本とする。 ・話し合いが停滞しているグループには、根拠については、接続詞や内容の構成などに着目させるように声掛けをする。 ○段落相互の関係を考え、説明文の構成の特徴をとらえている。【思】発言・記述 ・筆者の説明の仕方をまとめ、説明文をかくときにいかすことができるようにする。

- 1 日時・場所 令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時 4年〇組教室
 2 単元名 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう
 (教材名) 「ごんぎつね」 光村図書 4年
 3 単元・教材について

【単元目標】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力，人間性等
(1) オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。	C(1) エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 C(1) オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。	学習の見通しをもって、読んで考えを話し合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気づこうとしている。

【教材の特性】

6場面構成のうち、「1」から「5」までは主人公「ごん」の視点で書かれている。そのため、読み手は「ごん」の心情やその変化を捉えやすく、「ごん」のひたむきな思いや行動に寄り添いながら読むことができる。また、心情変化を読む力を育てるだけでなく、ちょっとしたいたずら心が思わぬ影響を及ぼしてしまうことや、せめてもの償いをという切ない思い、一方的な共感といったような人間理解を深めることも期待できる教材である。

段階	主な学習活動	評価規準
見通し(つかむ)	①題名とリード文から作品のイメージを膨らませ、単元扉の文を参考にしながら学習課題と見通しをもつ。 ②「ごん」がどのようなきつねなのかを叙述をもとにまとめ、初めの感想を書く。	・学習課題を解決するための計画を立て、見通しをもっている。 【態】記述・発言
課題解決(広げる)	③「1」場面について、ごんの言動や気持ちをまとめ、考えたことを交流する。 ④「2」場面について、ごんの言動や気持ちをまとめ、考えたことを交流する。 ⑤「3」場面について、ごんの言動や気持ちをまとめ、考えたことを交流する。 ⑥「4」「5」場面について、ごんの言動や気持ちをまとめ、考えたことを交流する。 ⑦「6」場面について、ごん(と兵十)の言動をまとめ、考えたことを交流する。 ⑧「6」場面について、ごんの気持ちをまとめ、考えたことを交流する。	・登場人物の気持ちを表す語句を知り、文脈に合わせて使うことができる。【知】記述 ・ごんの行動について叙述を基に捉えそのときのごんの気持ちを想像することができる。 【思】記述 ・情景描写や会話等の表現や叙述を基にして、ごんの気持ちをまとめることができる。 【思】発言・記述 ・自分の考えを広げることに進んで取り組み、学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。【態】発言・記述

共有化（深める）	⑨詳しく読んで分かったことや感じたことをもとに、物語や人物についての考えをまとめ、交流する。 ⑩単元の学習を振り返り、まとめる。	・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 【思】 発言・記述 ・友だちの感想や考えを聞き、考え方に違いがあることに気づいている。 【態】 発言・記述
----------	---	--

【単元計画】（全10時間）

4 児童の実態とめざす子ども像に迫るための手立て

【児童の実態】

○興味関心をもって物語文を読むことができる。 ○友だち同士の仲が良く、ほとんどの児童が相手と関わり合おうとすることができる。 ○ICT 機器に慣れ親しんでいる。	●主語を捉えられない児童がいる。 ●全体的に叙述を基にして読み取る力が低い。 ●自分の考えに自信をもって取り組む児童が少ない。 ●読書に進んで親しもうとする姿があまり見られない。
--	--

【めざす子ども像】課題に対する自分の考えをもち、他者との関わりを通して自分の考えを広げる子

【めざす子ども像に迫るための手立て～子ども主体の授業づくりを通して～】

- ①単元を通した学習課題について、自分の考えをもつ時間と交流する時間を毎時間設定することで、子どもたち自身で課題解決を図るようにする。**（考える必然性）**
- ②読みの視点を「ごん」に限定し、教科書の文や語句に線を引かせたり、オクリンクで読み取りの記録を残したりすることで、叙述を基に自分の考えをまとめられるようにする。**（考えの根拠の明確化）**
- ③クロムブックを活用した授業形態の工夫により、自分と他者の考えを可視化したり、記述も発言と同様に扱ったりすることで、児童一人ひとりが自分のペースで考えを共有していくようにする。**（考えの共有化・考えの相違の自覚化）**
- ④自分の考えをまとめたり、課題について読み取ったりすることが苦手な児童に声をかけ、児童の実態に合わせて課題解決の支援を行うようにする。**（教師の出場）**

5 本時について（8／10時間）

【本時目標】叙述をもとに「ごん」の気持ちについて自分の考えをもち、交流を通して考えを深める。

【本時展開】

学習のめあてと活動	支援・留意点（・）評価（○）【評価項目】／方法
1 学習のめあてを確認する。 「ごん」の言動や気持ちをまとめ、考えたことを話し合おう。 2 「6」場面について「ごん」の気持ちをノートやクロムブックにまとめる。	・本時の学習のめあて、学習の仕方を確かめながら見通しをもつ。 ・前時までにまとめた「ごん」（と兵十）の言動や気持ちを確認し、「ごん」の気持ちの変化を捉えられるようにする。 ・困っているように見える児童には、個別に声かけをする。

3 交流を通して、友だちとの考えの相違点に気づき、自分の考えを深める。 4 児童の発言や記述の相違点などから、学習課題を作り、全体で話し合う。 5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・交流では、クロムブックを活用することで、自由に活動できるようにする。 ○学習のめあてについて、叙述に基づいて自分の考えをまとめている。【思】発言・記述 ○自分の考えを広げることに進んで取り組み、学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。【態】発言・記述
--	--

- 1 日時・場所 令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時 5年〇組教室
 2 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう
 (教材名) 「たずねびと」 光村図書 5年
 3 単元・教材について

【単元目標】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) オ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	C (1) エ 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 C (1) カ 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	進んで人物や物語の全体像を描写をもとに、具体的に想像し、学習課題に沿って自分の感想を伝え合おうとしている。

【教材の特性】

広島出身の作者が広島で起きた空前絶後の惨禍を、主人公「綾」を通して描いた作品であり、中心となる人物である「綾」からの視点で描かれている。「綾」は児童と同じ11歳であり、戦争を知らない自分たちと同じ世代を生きる少女である。そういった点から児童は、自分の経験や思いを「綾」に重ね、「綾」とともに広島を訪ね歩き、原発が広島にもたらした現実を知り、考えを深めながら読むことができる教材である。

段階	主な学習活動	評価規準
見通し(つかむ)	② 全文を通読し、初発の感想をもつ。 ③ 初発の感想の交流をもとに、学習問題を決め、学習の見通しをもつ。 ④ 場面設定と場面分けをする。	・どんな場面が描かれているのかを考えながら通読し、初発の感想を持っている 【思】発言・記述 ・学習問題を捉え、学習計画を立てようとしている。【態】発言
課題解決(広げる)	④⑤⑥ 「綾」の心情を読み取り、短い言葉でまとめ交流する。 ⑦⑧ 広島を訪れる前と後で、「綾」の心情はどのように変化したのか。その変化の理由を考える。	・登場人物の心情を捉えるときに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識している。【知識】 ・心情の変化などを捉えて、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。【思】発言・記述 ・物語を読んで、変化した自分の気持ちや考えなどについて、自分の考えをまとめている。 【思】発言・記述 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。【思】発言・記述

共有化 (深める)	⑨ 物語を読んで、一番心に残った言葉をもとに感想（作品に込めた思い）を伝え合う。	・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。思【発言・記述】
--------------	--	---

【単元計画】（全9時間）

4 児童の実態とめざす子ども像に迫るための手立て

【児童の実態】

- 友達の考えに共感することができる。
- 自分の考えをもつことができる。
- ICT 機器に慣れ親しんでいる。

- 物語の全体像を捉えることが難しい児童がいる。
- 叙述に基に読み取る力が低い。
- 自分の考えを伝えることに苦手意識をもっている。
- 相手に伝わるように、話すことが難しい児童がいる。



【めざす子ども像】 課題に対する自分の考えをもち、他者との関わりを通して自分の考えを広げる子



【めざす子ども像に迫るための手立て～子ども主体の授業づくりを通して～】

- ①初発の感想を大切にし、それをもとに、子どもたち自身が「自分の考えを伝えたい。」「みんなで話し合いたい。」というような“考える必然性”のある学習問題をもち、その解決を図るようにする。
(考える必然性)
- ②読みの視点を「綾」に限定し、叙述をもとに自分の考えをまとめられるようにする。
(考えの根拠の明確化)
- ③自分と他者の考えを明確にできるように文型を用い、自分と他者の相違を自覚化できるようにする。オクリンクやグループワークを通して、自分の考えを全員に伝えられるようにする。
(考えの共有化・考えの相違の自覚化)
- ④子どもたちの考えを丁寧に見取り、それぞれの考えに対して価値づけをしたり、考えを把握したりして、共有化に活かせるようにする。
(教師の出場)

5 本時について（8／9時間）

【本時目標】主人公の心情の変化を、叙述をもとに考え、交流を通して考えを深める。

【本時展開】

学習のめあてと活動	支援・留意点（・）評価（○）【評価項目／方法】
1 前時までの学習をふり返る。 2 本時のめあてを知る。 めあて 綾の気持ちの変化したきっかけを考えよう。 3 「綾」の変化に影響を与えた出来事を考える。 〈文型〉 綾の気持ちの変化したきっかけは、○○だと思います。なぜかという、○○ページの○行目「（ ）」と書かれているところから、○○○と考えるからです。 〈予想される本文の引用〉 ⑤の場面 ・そんなにたくさんの人がたった一発の爆発のせいで、この世からいなくなってしまうなんて。 ⑥の場面 ・とぎれなく現れ続ける顔をずうっと見つめていたら、気が遠くなりそうだった。でも、どうしても目がはなせなかった。 ⑦の場面 ・「この楠木アヤちゃんの夢やら希望やらが、～幸せにおくらしなさいよ。」 4 自分の考えをまとめる ・綾の気持ちの変化のきっかけはおばあさんだと思ったけど、資料館で見た子どもたちの顔も変化のきっかけだと思う。 ・きっかけは資料館だと思う。友だちの考えを聞いて、根拠が増えた。	・「綾」が広島に行く前後に出会った人物や出来事、その時々的心情について、確認する。 ・前時までに、オクリンクで自分の考えをまとめておく。 ・きっかけごとにカードを色分けし、①同じ色②ちがう色の順で交流する。 ・交流する際は、自分と相手の考えの共通点や相違点を考えながら聞くように伝える。 ・納得した考えのカードを友だちからもらい、自分のカードと見比べられるようにする。 ○主人公の心情の変化に影響を与えたものについて叙述をもとに考え、まとめている。 【思考/オクリンク・発言】 ・友だちの考えやもらったカードを参考に、再度考えたことを新しいカードに記入し、発表する。

- 1 日時・場所 令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時 6年〇組教室
 2 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えをもとう
 (教材名) 「やまなし」 光村図書 6年
 3 単元・教材について

【単元目標】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) ク 比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。	C(1) オ 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができる。 C(1) カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

【教材の特性】

「私」による一人称視点で書かれた外枠と、三人称の客観的な視点で書かれた「五月」「十二月」の2枚の幻灯という額縁構造になっている。谷川の底から見た水中の世界が、「五月」と「十二月」とを対比させながら、宮沢賢治独特の色彩豊かな表現で描かれている。それら構成・表現の面から作品世界をとらえることを通して、作者の思いと重ねて自分の考えを形成することのできる教材である。

段階	主な学習活動	評価規準
見通し (つかむ)	⑤ 全文を通読し、初発の感想をもつ。 ②初発の感想の交流をもとに、学習課題を決め、学習の見通しをもつ。 ③「五月」「十二月」で描かれている風景を、簡単な絵や図に表し、物語の設定や展開を確かめる。	・学習課題を解決するための計画を立て、見通しをもっている。 【態】記述・発言
課題解決 (広げる)	④「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について捉える ⑤「五月」の場面の様子について読み深める。 ・かへの親子の様子 ・川底の様子 ・独特な言葉や表現 ・色や音を表す言葉 ・上からやってきたものの印象 ⑥「五月」と同様に「十二月」の場面の様子について読み深める。 ⑦「五月」と「十二月」の場面を比べ、感じたことや考えたことをまとめ、なぜ、「やまなし」が題名なのか考える。	・物語世界の全体像を具体的に想像するとともに、宮沢賢治の生き方や考え方、作品の特徴を捉えている。【思】記述 ・語のリズムや表現のもつ美しさ、比喩などの表現上の特色について気づいている。 【知】記述 ・表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。 【態】発言・記述

共有化 (深める)	⑧自分の読み深めをもとにして、なぜ題名が「やまなし」なのかについての自分の考えをもち、交流する。 ⑨宮沢賢治が「やまなし」に込めた思い（作品の心）についての考えをまとめ、交流する。	・題名に着目しながら二つの場面を比べて読み、作者が作品に込めた思いについて、叙述に基づいて自分の考えをまとめている。 【思】発言・記述 ・自分の考えを広げることに進んで取り組み、学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。 【態】発言・記述
--------------	--	---

【単元計画】(全9時間)

4 児童の実態とめざす子ども像に迫るための手立て

【児童の実態】

○物語の全体像を捉えることができる。 ○叙述に沿って人物の心情を想像することができる。 ○自分なりに考えをまとめることができる。 ○ICT 機器に慣れ親しんでいる。	●表現の工夫や効果に着目して読む力が弱い。 ●自分の考えを伝えず、客観的に話し合いに参加している子が多い。 ●読書に進んで親しもうとする姿があまり見られない。
--	--

【めざす子ども像】課題に対する自分の考えをもち、他者との関わりを通して自分の考えを広げる子

【めざす子ども像に迫るための手立て～子ども主体の授業づくりを通して～】

- ①初発の感想を大切に、それをもとに、子どもたち自身が「自分の考えを伝えたい。」「みんなで話したい。」というような“考える必然性”のある学習課題をもち、その解決を図るようにする。
(考える必然性)
- ②自分なりの読みを深めていくために、想像図を描いたり、その想像図に書き込みをしたりするなどして、課題に対する自分の考えをまとめるようにする。(考えの根拠の明確化)
- ③自分と他者の考えを可視化し、どの子も同じ土俵に立って考えを表し、共有していくようにする。
(考えの共有化・考えの相違の自覚化)
- ④子どもたちが作成した想像図を丁寧に見取り、それぞれの考えに対して価値づけをしたり、考えを把握したりして、共有化に活かせるようにする。(教師の出場)

5 本時について (8 / 9 時間)

【本時目標】自分の読み深めをもとに、題名に対する自分の考えをもち、交流を通して考えを深める。

【本時展開】

学習のめあてと活動	支援・留意点 (・) 評価 (○) 【評価項目】 / 方法
1 学習のめあてを確認する。 なぜ題名が「やまなし」なのか自分の考えをもとう。 そして、考えを交流しよう。 2 なぜ題名が「やまなし」なのか、それぞれの考えを交流する。	・本時の学習のめあて、学習の仕方を確かめながら見通しをもつ。 ・前時に書いた児童の考えを一覧表にして配付し、自分の考えと比較しながら考えられるようにする。 ・困っている児童には、自分の作成した想像図を活用するように声かけをする。 ・話し合い方は、全体だけでなくペアを取り入れる。

3 交流を通して、友だちの考えのよさや自分の考えの変容について気づいたことを伝え合う。 4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	ペアの話し合いは、子どもが必要を感じたり、全体の話し合いが進まなかったりしたときに行う。 ○題名に着目しながら二つの場面を比べて読み、作者が作品に込めた思いについて、叙述に基づいて自分の考えをまとめている。【思】発言・記述 ○自分の考えを広げることに進んで取り組み、学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。【態】発言・記述
---	---